

DX戦略 4象限で「社会の大丈夫をつくっていく。」

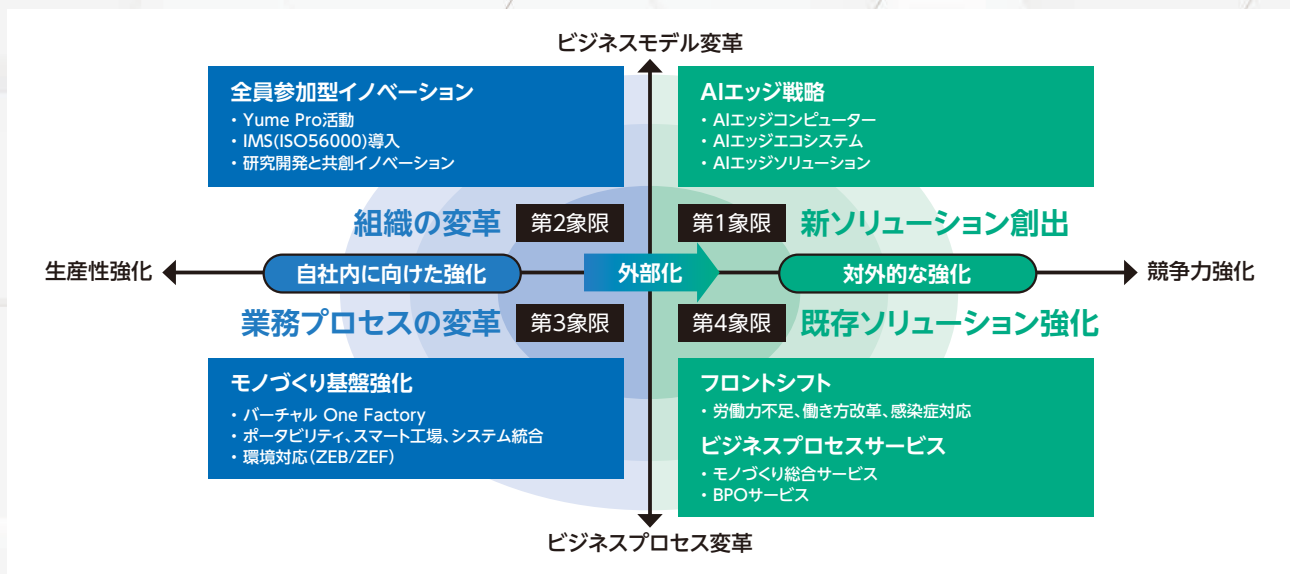
OKIは2022年6月、「組織の変革」「業務プロセスの変革」「新ソリューション創出」「既存ソリューションの強化」の4象限でお客様のDX実現に貢献する、新たなDX戦略を発表しました。自社のDX技術・プロセスを強化し生産性向上を図ること、そして強化した技術・プロセスを新ソリューション・サービスとしてお客様に提供していく「外部化」を進めることで、お客様の共創パートナーとして「社会の大丈夫をつくっていく。」DXを推進し、OKIの競争力を強化していきます。

企業がデジタルトランスフォーメーション(DX)を実現するためには、単にアナログで行っていた業務をデジタル化するだけでなく、社内組織や業務プロセスそのものを改革することが重要です。OKIの新戦略では、自社グループ内におけるDXの実践・強化により自らの組織改革・業務プロセス改革を進め(第2象限、第3象限)、そこで得られた技術・プロセスを外部化することにより、お客様のDX実現を加速させます(第1象限、第4象限)。

本戦略の一例として、2022年7月に本格稼働を開始したOKI本庄地区(埼玉県本庄市)の新工場(本庄工場H1棟)では、スマート工場を目指すOKIのソリューションコンセプト

「Manufacturing DX」を現場実装しています。OKIはDX新戦略のフラッグシップファクトリーと位置づけるこの新工場において、研究開発や共創イノベーションによって創出した技術・ソリューションを活用し、ここで強化・蓄積された技術・プロセスやノウハウを新ソリューションの提供や既存ソリューションの強化につなげることで、お客様の製造部門などにおけるDX実現を支援します。

OKIのDX Webサイト
<https://www.oki.com/jp/dx/>



4象限で推進していくOKIのDX戦略

Message

OKIには豊富な顧客基盤とインストールベース、そして長年培ったモノづくりの力を含む技術力があります。これらを強みに、エッジ(現場)にフォーカスしながらDXを推進していくという基本的な考え方は従来と変わりません。DX新戦略では、これを着実に推進するための仕組み、そしてOKIグループの具体的な取り組みを4象限に整理し、「内部でDXを進め、その成果を外部化する」というアクションとして明確に示しました。

「外部化」のためには、自社の技術やプロセスを高度化しながら共創によりお客様のニーズを深掘りし、足りない部分はパートナーとのアライアンスで補完するなどして、確実に商品化につなげることが重要です。4象限の整理により新戦略をわかりやすく社内外に発信することで、関係者の対話と共創を誘発していきます。



専務執行役員 デジタル責任者
 坪井 正志